

夢あふれる科学の世界に！



重 川 秀 実

新年、明けましておめでとうございます。本年も宜しくお願い致します。

昨年も、不透明で先を見通せない景色が続き、まだまだ御苦労もあったことと思いますが、明日への光を感じる楽しい正月をお迎えになれましたでしょうか？

2021年のノーベル物理学賞が、大気と海洋を結合させた物質の循環モデルを提案し、地球温暖化を予測するシステムの基礎を開発された、プリンストン大学上級研究員の真鍋淑郎氏に授与されました。地球科学の分野で初めての受賞になるようです。二酸化炭素の濃度が気候に与える影響は、まさに我々が生きる日々の生活が、その命の器である自然をどう形作るかを定める話になります。自らの日々の生き方が自身の未来に大きく関わることに改めて気づかされ目が覚めます。

昨年、折しも、小松左京氏の『日本沈没』のテレビドラマが放映されました。1973年のSF小説で、これまでも何度か映画化やテレビドラマ化されてきた物語ですが、昨今の地震の多さや火山噴火、洪水被害と重なり、眠りが浅くなった方もあるかも知れません。小松左京氏は、1964年に、謎のウイルスが出現し人類が絶滅の危機に瀕する『復活の日』の作者でもあります。学生時代、宇宙存在の謎に自身の生きる意味を探る思いを重ね、氏の本の多くに手を延ばし答えを求めていたことが懐かしく思い出されます。地球の変動については、そもそも自然がこれほど安定であること自体が不思議な幸せなのかも知れません。日常生活の諸々を含め、世界は非常に微妙なバランスの上に成り立っています。昨今の状況は、そうした現実を忘れがちな我々に、女神が、幸せな世界のあり方や科学に取り組む姿勢を見つめ直すよう、囁いているのかも知れません。

昨年夏、不安の中で開催されたオリンピック、パラリンピックでしたが、選手が力を振り絞る姿にふれますと心が揺さぶられ応援の手にも力が入りました。第一線に立つには、多くを犠牲にすることもある中、夢を求め計り知れぬ努力があるものと思います。野球の大谷選手も大活躍しMVPを獲得して力をもらいました。発表の日、一日流れるニュースの中で、『この世界で一番になることを目指して小さい頃から夢を追ってきました』、との言葉がありました。科学技術の分野も、こうして子供の頃から夢を持てる魅力的な世界にできれば、と思いながら笑顔に見入っていました。

人生は一度で短く、日々の時間は一秒たりとも無駄にできません。自然を愛し、家族を、そして友を大切に過ごすことが何よりですが、幸せな未来を築くには、その基盤となる科学技術を追う世界に夢を与え、多くの後継者を育てていくことが求められます。女神の声に耳を傾けながら、夢あふれ幸せを生む学会の活動に、更なる一步を踏み出せましたら。

それでは、今年一年、皆様にとって素晴らしい年になりますよう！

(筑波大学数理物質系)